八王子文化連盟と八王子囲碁連盟との二人三脚

昭和 20 年から 30 年代かけて「文化」という言葉が流行りました。「文化鍋」「文化包丁」「文化風呂」「文化シャッター」などが大いにうけたものです。世の中が開けて便利でモダンな生活の機運が高まった頃です。文化が「カルチュアー」という意味ではなく、単に「新しい」という意味で使われた時代です。やがて、「文化住宅」といった物質的な所産から、地域や社会に固有の文化を学習や交流によって無形の精神的遺産を継承しようとする運動が起こります。そして昭和 31 年にできたのが「八王子文化連盟」です。今は「八王子の文化芸術を担い、育み、次代へ継承することを目的とする」というハイカラなうたい文句を掲げています。

八王子市民文化祭は、昭和 26 年より市教育委員会の主催で教育文化祭として行われます。昭和 30 年より八王子文化連盟が関わり市共催・主催となります。そして令和２年現在、連盟は加盟 33 団体で会員 5,000 人余を擁する規模となっています。市民文化祭の盛況ぶりは、昨年リニューアルされた文化連盟サイト上のビデオでご覧いただけます。市民囲碁大会や子ども囲碁大会の様子も紹介されています。

少し遡りますが、八碁連は、平成 19 年に文化連盟に加盟し、その年に「市民囲碁大会」を主管します。その時の市民文化祭は第 57 回で、文化連盟担当役員(理事)は恩方同好会の淵上和男氏でした。淵上氏は、平成 22 年の第 60 回大会まで役員をされ、その後平成 23 年から平成29年まで浅川同好会の望月成一氏が理事となります。さらに平成 30 年から現在まで、恩方同好会の竹内朝晴氏が常任理事として活躍しています。文化連盟には年会費を納入しています。

八王子文化連盟は八王子市と緊密な関係を保っています。市民文化祭の会場は市民会館とかオリンパスホール、いちょうホール、そして東浅川保健福祉センターなどです。すべて文化活動のために優先的に利用できるのは八王子市の

お陰です。八碁連の主要な大会が東浅川保健福祉センターを優先的に予約し、無料で利用できているのも、八王子文化連盟に加盟しているからです。なお、市民囲碁大会の補助金は八王子市より頂戴し、大会運営にあてています。以上のような経緯は、記念誌の精査、歴代の理事である淵上氏のメモ、そして望月氏と現在の常任理事である竹内氏からの聞き取り調査等によるものです。

平成29年 八王子 100th

百年の彩りを
次の100年の
輝きへ

八碁連は以上のように、文化連盟や八王子市から有形無形の支援を受けて今日に至っています。会員の皆様には、この二人三脚という共生の歴史をご理解していただけると幸いです。

(文責　成田　滋　2021/3/2)